

宝小への南養護学校分校設置に問題あり。

名古屋市議会子ども教育委員会に提案された

「名古屋市立特別支援学校高等部の生徒数増加への対応（案）」

(2012. 11. 20) の再検討を求めます

2012年11月28日

『名古屋市立養護学校の環境充実を求める会』

名古屋市教育委員会は11月20日に開催された市議会子ども教育委員会で、「名古屋市立特別支援学校高等部の生徒数増加への対応（案）」を明らかにしました。

生徒数増加への対応策として、

1. 特別支援学校の整備に関する考え方

- ①特別支援学校の設置義務は都道府県にあるため新設について愛知県に要望する。
- ②既に名古屋市が設置した特別支援学校の教室不足への対応は喫緊の課題であり、本市で教室の整備等を行う。
- ③特別支援学校の教室確保にあたっては、当面、最大でも1学級当たりの生徒数10人以内で整備を進めていくが、今後は1学級8人(国の標準)となることを目指して整備していく。

2. 整備の方法

- ①市内公立学校の余裕教室の活用を検討する。
- ②小規模校対策で統合後の空き施設活用を検討する。
- ③特別支援学校の近隣公共施設等への拡充を検討する。

としています。その中から当面の対応策として宝小学校の余裕教室1棟分を活用し、南養護学校分校（小学部）を設置することにより、現在の南養護学校の高等部生徒の教室を確保するとして、小学部15学級を分校に移し（27年度開校）、現在の南養護学校高等部生徒150人程度を受け入れるとしています。

私たち、市立養護学校の父母、父母OB、教職員で構成する『名古屋市立養護学校の環境充実を求める会』は、養護学校の教育条件充実のために、全教室冷房化を求める運動などをすすめてきました。

この6月には「名古屋市立特別支援（養護）学校の大規模校化を解消し、障がい児教育の充実を求める請願書」（署名数約1万筆）を市議会へ提出し、以下の項目を要求してきました。

1. 特別支援（養護）学校の大規模校化解消のため、新たに特別支援学校を建設してください
2. 守山養護学校設置の産業科を単独校として他の場所に建設してください

しかし、今回の教育委員会の考え方は、私たちの要求とは大きくかけ離れたものあり、多くの父母の思いにほど遠いものです。

日本の特別支援（養護）学校には他の学校、幼稚園、保育園にある「学校設置基準」がありません。したがって、名古屋市でも特別教室を普通教室に転用したり、廊下をパーティションで仕切って倉庫や更衣室に作り替えることで、教室不足をごまかしてきました。

特別支援学校の大規模校化・狭隘化は、子どもたちの教育に深刻な影響を及ぼし、学習への集中や、落ち着きをなくさせる学習環境を強いてきたのではないのでしょうか。

文科省は、明確な設置基準は示すことができていませんが、2009年3月「特別支援学校施設整備指針」で基本的な考え方を示し、「**多様な学習内容、形態による活動を可能とする施設として計画することが重要である。その際、幼児児童生徒の主体的な活動を支援する工夫や幼児児童生徒の持てる能力を高め、豊かな学校生活を送ることができる空間として計画することも重要**」とし、単なる教室確保だけが教育条件でなく、様々な教育的取り組みのためのスペース確保が必要だとしています。

名古屋市教育委員会も、市立養護学校の現状をふまえて、今回のような「対応」を決めたのですが、その内容は近視眼的なものと言わざるをえません。

まず、宝小学校は南養護学校とは地理的に離れすぎています。南養護学校への通学の利便性を考えて入学した児童・父母らの思いを無視しています。分校と言っても完全に分離されてしまいます。

さらに、スクールバスや細かな対応のいる給食の調理体制は、分校レベルの少人数でどうするのでしょうか？まさか、宝小学校の調理体制をそのまま活用するというのでしょうか？そして、運動会などの学校全体の行事はどうなるのか、9年間の一貫教育が崩壊してしまう、など父母や教職員の心配は限りがありません。

マンモス校化はいち早く解決しなければなりません。しかし、この先の10年間を見据えたような計画的な「対応」が必要です。

今回のような年度ごとにパッチワークの様な継ぎはぎの施策では、かえって税金の無駄遣いだと思います。もう一校養護学校を建設すれば、かなりの解決ができるはずです。

障がい児の学ぶ権利は踏みにじられ続けています。これは教育条件整備を学習権を保障する十分なものとせず、今回のような対応でごまかし続ける名古屋市、教育委員会に責任があります。障がい児教育の教育条件を根本的に改善し、ひとり一人の学習権、発達権の保障できる学校を建設するには、今回のような「対応」では何ら解決できません。

教育委員会は、今回の考え方を撤回し、再検討するよう求めるとともに、守山養護学校の産業科設置の際に、父母や教職員の危惧の声に耳を傾けなかった姿勢を反省し、現場である南養護学校の教職員・保護者や宝小学校の教職員・保護者の意見を尊重することを求めます。